

残された日々の過ごし方

●1月も終わり2月も半ばが過ぎた。長い闘いの日々を過ごしてきた受験生。お疲れ様。いややまだ終わっていない。公立前期入試で結果を出せなかった中3生は後期入試。国公立志望の高3生はこれから。一部の私大は、2月下旬が入試だし、3月入試に挑む人もいる。ここでへこたれる訳にはいかない。氣力をふりしぼって、もうひと頑張り。



●ところで、長年受験生を指導してると様々な場面に出会う。嬉しいこともたくさんあるのだが、今回は生徒側のつらい気持ちについて書いてみよう。

●会場に向かう途中でさえ、苦しくてたまらないという人は多い。中学生は同じ中学校の生徒で集まって高校まで行くので、気が紛れることもあるが、大学受験生は本当に一人で孤独を味わうことになる。会場に向かう人の波の中、他の人が優秀に見え、敵に見える。そして、どこにでもいるのが、他の受験生を威圧する奴。「おれは満点狙うぞ!」「普通にやれば楽勝楽勝!」「社会は、あそこが絶対出るぞ!」「理科は今年はバネが出るらしい。」本当なのか、虚勢をはっているのかは分からないが、とにかくよ

くしゃべる。気の弱い生徒は、その話に聞き耳をたてて、自分の不安を肥大させる。

●問題配布の前に席について待たされるが、その時間が重苦しく、長く長く感じられる。「落ち着こう。」と自分に言い聞かせるが、逆に緊張して頭の中は真っ白。真っ白のまま試験が始まる。「どうしよう。」「全然解けない。」「しまった!残り時間が少ない!急がなきゃ!」「ちつとも答えが出ない!」

●一科目めは失敗。そこへ、また例の奴等の声がする。「簡単だったよな。」「まあ、おれは一間ミスかな。」

●そして、二科目め。一科目めのことを思い出してしまふ。「あの問題は解けたはずだ。」今の問題に集中しようとしてもまた思ってしまった。「また失敗したらどうしよう。」「逆に自分にプレッシャーをかけた。」「今度こそ頑張らなきゃ。失敗した分をとりもどそう!」結果、同じ失敗をしてしまふ。

●まだまだある。「やばい!傾向変わっているよ!」「解答欄間違えた!」「しまった!記号で書く所を、語句で書いた!」「問題読み間違えた!」「自分の名前を書かなかった!」

●さて、こんなことを長々と書いたのには理由がある。模試や本番入試で失敗した経験を思い出してほしいからだ。時間をかけて、そしてそれを書き出してほしい。書き出したら、それを毎日読む。そうすることで同じ失敗は避けられる。ついでに解決策ものせておく。①他の奴の強がりは無視。②あがったら深呼吸10回。③解

けないのは後回しにして他の問題の時間を確保。④失敗する科目があるのは当たり前。他の科目をしつかりやる。⑤傾向は変わると思え。⑥設問をよく読む。

●最後に。合格するために最も大事なことは直前の過ごし方だ。今までやってきた基本的な作業は続けること。過去問の解き直しをすること。講師の指示に従うこと。特に問題の答え合わせしかならないで伸び悩んでいる高校受験生は、過去問を解いて、解いた時間の倍かけてもいいので解答解説を理解すること。それだけで、得点する力が大きくupする。さあもう少しだ。後悔しないよう精一杯やろう。(小林(健))

子育て奮闘記②

●私には、三人の子どもがいる。前回、長女の話をし、様々な共感の声を頂き、ありがとうございました。

●あれから彼女は、苦手な算数が九九に突入したものの、予想に反し意外とスムーズに学習が進み、時には私の突然のムチャ振りにも応じてくれる程の成長ぶり。

●例えば、「1の段から9の段逆から」など。間違えたときには「最初からやり直し」と悔しさを煽り、逆に、ひとつも間違えなかった時には、大げさなほど褒め、めちやくちやに頭をなでてやる。照れくさそうに笑う姿を見ると、頑張っているなと実感する。

●今回は、2番目の子、長男の話をしたいと思う。

●皆さんのご記憶にもないだろうか。子どもの頃、舞台上で、大勢の子が楽しく歌ったり踊ったりする中、なぜか先生に抱えられて、すねている友達。

●まさに、わが子がその状態だった。昨年保育園の発表会、忍者になる予定だった。わが子の成長ぶりが確認できると、親として楽しみな日。ところが、いざ幕があがると、園長先生の膝の上。楽しみにしていた分、腹立たしさなのか、悔しさなのか、つい涙目になった。雄姿を撮ろうと構えていたビデオ撮影を止めて、「ちゃんやれ!」と目で合図するも、息子には届かず。一向に参加しないまま、演目は終了した。妻に促され、園長先生の膝に座り続ける姿を、ビデオに収めた。

●ところが、あとで妻に聞くと、私とは感じ方が違うらしい。息子が参加しないであろうことを、送り迎えでの先生との会話や息子との会話から予期していた、と言うのだ。そんな妻の目には、園長先生の膝に座り、演目には参加しないものの、拍手したり、親の姿を見つけて手を振ったりする息子は、発表会を楽しんでいると映ったようだ。

●親は、子どもに少なからず期待している。子どもたちもその期待に応えようと気持ちは動いているはずだ。しかし、親の期待の方が大きいのか、思うように体が動かずもたす姿を見ると、つい「こんなことも出来ないのか」と

さらに追い討ちをかけてしまいかねない。

●なぜこんな単純なことができないのか、と思ってしまうが、「単純なこと」は大人目線だったり、できる子との比較だったりする。実際、我が家の場合、長女が歌や踊りの得意な分、これまで実にも楽しませてくれた。子どもにはそれぞれ個性や得手・不得手がある。分かりきったことだが、姉と弟でつい比べてしまっていたのである。反省すべき点だ。

●そんな長男に感心した出来事。朝、保育園に送りに行ったときの友達や先生とのあいさつ。「○○君おはよう。」「□□ちゃんおはよう。」「△△先生おはよう。」「……」

●すべてのあいさつの前に相手の名前をつけているのである。

●子は親を映す鏡だという。私は子どもたちの手本となっているだろうか。

●もうすぐ、保育園の発表会。

今年はアリとキリギリスの劇らしい。好きに配役を決められるようで、「アリとキリギリス、どっちがいいかなあ」という息子



子に妻が、「アリは一生懸命働いて食べ物を集めたけど、キリギリスは遊んでばかりで、寒い冬に食べ物が無くなって、困ってアリにもらうんだよ」と説明。すると息子はすかさず、「じゃあキリギリスかな」と。

●そんな愛すべきわが息子、今年の発表会こそは、とつい期待せずにはいられない。

(森)

「生まれてくれて Welcome!」

●みなさんは生まれてきたことに幸せを感じていますか?もしも感じられない人がいるならば、大声で叫んであげたい。(中島みゆき風に言えば……)
「生まれてくれて Welcome!」あなたは生きていてくれてすばらしい!



●先日こんな話を耳にした。昔、ヨー

ロッパである実験が行われた。その実験とは、町に捨てられた赤ん坊を二つのグループに分け、Aグループには抱き寄せたりキスをしたり愛情を持ってミルクを与えるのに対して、Bグループには愛情を与えないでただミルクを与えるだけという実験だった。その実験は失敗した。愛情を与えられなかった赤ん坊は全員大きくなる前に亡くなってしまったのだ。この実験から分かったこと。それは、人は食べ物や飲み物だけで生きていけるわけではないということだ。愛情を受けないと生きられない。今この瞬間も生きている私たちはみな、愛されてきた存在なのだ。

●自分は愛される存在ということは、だれかを愛している存在でもある。ではその愛は相手に伝わっているだろうか。

●教育コーチングによると、「存在」「行動」「結果」の三つの承認があると言われている。「お手伝いしてくれてえらいね」や「よく勉強しているね」と褒めるのは「行動承認」だ。「逆上がりできてすごいね」や「テストの点数がよかつたね」などと褒めるのが「結果承認」にあたる。では、「あなたがいるだけでうれしい」や「生まれてきてありがとう」などの「存在承認」はしているだろうか。赤ん坊が生まれてきたとき、無条件で「存在」そのものを愛していたはずが、やがて「よい成績をとれば幸せになれる」と子どもに「結果」だけを求めるようになってはいないだろうか。

●人は幼少期に自分よりもはるかに大きな力を持った相手(たいていは保護者)によってトラウマを刷り込まれる。「行動」や「結果」に対しては褒められる一方、「存在」が認められない。「結果を出せない自分には愛される価値がない」とトラウマが設定されてしまう。この状態では愛されていると感じることができない。もちろん「行動」や「結果」を褒めることも大切だ。しかし、「存在」を認めてあげることがもっと大切なのだ。「存在」そのものに不安を感じ、飢えにも似た欲求で結果を求め続けると、時として常軌を逸した行動に出ることがある。万引き、いじめ、暴力……。こんな行動をとる私でも、お父さん、お母さんは私の『存在』を愛してくれますか?と試すのだ。しかしこれらの行動でも望むものを手に入れられない。「こんな悪いことをする子はうちの子ではない。」「こんな育て方をした覚えはない。」と多くの場合は再び「行動」に焦点が当てられてしまうからだ。

●本来、人は自分の「存在」そのものが無条件で愛されている認識を持つことで、安心して「行動」を起こすことができ、「結果」を手に入れら

れる生き物である。人は「行動」や「結果」よりも自分の「存在」を認めてほしいのだ。かつての私がそうであったように。

●冒頭のセリフ(「生まれてくれて Welcome!」)は実は二十過ぎの頃に私が母から言われたセリフである。それまで親に対する感謝の気持ちなどなく自分勝手に生きてきた。反抗期の域を逸脱して非情な振る舞いもさんざんしてきた。そんな私でも「生まれてくれてありがとう」と言ってくれる家族。それまでは自分が愛されることだけを考えて生きてきた人生。「エリートになれば幸せになれる」と結果だけを追い求めてきた人生。その先にあるのは幸せではなく、嫉妬や憎しみだけであった。「すごいね」よりも「ありがとう」と言われる方がはるかにうれしいのだ。

●「存在 (プレゼンス)」している状態はまさに「プレゼント」。今こそ感謝の気持ちを母に伝えたい。「生んでくれてありがとう。」冷血人間だった私の人生を変えてくれたセリフ。今度は私からみなさんに伝えたい。「生まれてくれて、ありがとう。」

●これからは「自分のため」でなく「人の幸せ」を求めて生きていきたい。

(参考文献:『人生が180度変わる幸せの法則 総合法令出版』著:木下晴弘 引用曲:『誕生』by中島みゆき)

(櫻村)

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。